

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果

4 月に全国の 6 年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校における結果の概要についてお知らせします。この調査結果は 8 年生の結果ではありますが、他学年にも共通する学校全体の結果として捉え、今後の指導改善に生かしてまいります。

	学校の概要	今回の調査における課題	改善の方策
国語	【領域】 ◇「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ・ 全国平均を下回っている。	「情報の扱い方(61.7%)」は全国平均(52.3%)を超える一方、「言葉の特徴や使い方(64.2%)」は全国(66.8%)をやや下回り、語彙や文法、語句の相互関係の確実な定着に課題が見られます。 平均正答率は 67.8%と全国平均(65.8%)を上回っているものの、話し手の工夫やその効果を的確に捉え、話の構成や意図を深く読み取る力のさらなる定着に課題が残ります。 平均正答率は 45.0%と低く、特に集めた情報を引用・整理して自分の考えが伝わるよう記述する問題(23.3%)や、漢字を文中で正しく使う知識・技能(53.3%)に明確な課題が見られます。 平均正答率は 71.7%と全国(65.9%)を大きく上回る強みですが、文章の構造を把握した上で、理解したことに基づき筆者の主張や根拠を多角的に分析し、自分の考えとしてまとめる設問(53.3%)に課題があります。	語彙や言葉の決まり(文の接続、指示語、比喩表現等)を単なる暗記にとどめず、実際の読解や記述の文脈と結びつけて活用する指導を行います。日常の授業で語句の意味や文脈上の働きを捉えさせる問い掛けを意識的に行い、辞書を引く習慣を定着させます。優れた情報活用能力を強みとして活かしつつ、言葉の知識・技能をより確実なものへと高めます。 音声や動画資料、児童同士の話し合い場面を活用し、話し手の工夫(間や抑揚、構成など)とその効果に着目させる指導を行います。発表後に「どの工夫が効果的だったか」を相互に振り返る活動を取り入れ、話の中心や意図を整理して聴く習慣を身に付けさせます。これにより、目的に応じて話し手の意図を的確に捉え、自らの考えの形成に生かす力を育成します。 資料から必要な情報を抽出し、根拠を明確にして自分の考えを記述する学習も積み重ねます。子どもの思考の手助けとなるよう段落相互の関係を可視化させ、引用や推敲の手順を具体的に指導します。併せて、文脈の中で漢字を正しく使う小テストや日常的な書く活動でのフィードバックを継続し、記述に対する抵抗感を軽減して表現の基礎力の定着を図ります。 説明的な文章や文学的な文章において、単なる感想にとどまらず、文章の記述や根拠に即して論理的に読み取る学習を強化します。「筆者の考え」と「自分の体験や意見」を比較・整理するワークを取り入れ、読んだことに対して根拠をもって自分の考えをまとめる指導を深めます。これにより、高い読解力を一層伸ばし、批判的思考力を育成します。
	◇「情報の扱い方に関する事項」 ・ 全国平均を大きく上回っている。		
	◇「話すこと・聞くこと」 ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。		
	◇「書くこと」 ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。		
	◇「読むこと」 ・ 全国平均を大きく上回っている		

算数	【領域】 ◇「数と計算」 ・全国平均を下回っている。	平均正答率は 54.6% と全国平均 (61.1%) を下回ります。整数の最大数作成など基礎問題の正答率の高いものの、十進位取り記数法の理解や、異分母分数の大小関係を判断して理由を言語化・記述する設問に課題が見られます。	小数の十進構造や分数の概念について、数直線や視覚的モデルを用いた理解を徹底します。単に計算手順を追うだけでなく、「なぜその大きさになるのか」を図や式、言葉を往還させながら説明し合う言語活動を取り入れます。また、異分母分数の比較問題などを活用し、自分の考えの根拠を筋道立てて記述する短時間学習を反復することで、数理的な処理能力と数学的表現力の定着を図ります。
	◇「図形」 ・全国平均を下回っている。	平均正答率は 45.0% と全国平均 (55.3%) を大きく下回ります。直方体や立方体の構成要素の理解や体積の立式に加え、図形条件に着目して量の求め方を数や言葉で記述する思考・表現問題に顕著な課題があります。	具体物やデジタルコンテンツを活用し、空間における面の関係や構成要素を視覚的・操作的に捉えさせる指導を強化します。公式の暗記にとどまらず、「どの構成要素に着目しているか」を直観的・論理的に再確認させます。さらに、与えられた条件から解法を組み立て、求めるプロセスを言葉や図を用いて筋道立てて説明・記述する場面を意図的に設定し、図形的思考力と表現力を培います。
	◇「測定」 ・全国平均を下回っている。	正答率は「変化と関係」が 41.1% (全国 41.1%)、「測定」が 73.3% (全国 78.1%) です。時間計算等は定着していますが、単位量当たりの大きさにおける除法の意味理解や、基準量と割合の関係を表す図の活用に課題が見られます。	割合や単位量当たりの大きさなどの抽象的な数量関係を視覚化するため、関係図(テープ図)や数直線を積極的に活用します。「何が基準(1)か」「何倍に当たるか」を図と式、言葉で相互に変換しながら捉えさせます。混み具合や割合などの具体的事例を通して数量関係を整理・比較させ、図を用いて解法の根拠を論理的に説明する学習活動を充実させることで、活用力を育みます。
	◇「変化と関係」 ・全国平均とほぼ同程度	正答率は「変化と関係」が 41.1% (全国 41.1%)、「測定」が 73.3% (全国 78.1%) です。時間計算等は定着していますが、単位量当たりの大きさにおける除法の意味理解や、基準量と割合の関係を表す図の活用に課題が見られます。	割合や単位量当たりの大きさなどの抽象的な数量関係を視覚化するため、関係図(テープ図)や数直線を積極的に活用します。「何が基準(1)か」「何倍に当たるか」を図と式、言葉で相互に変換しながら捉えさせます。混み具合や割合などの具体的事例を通して数量関係を整理・比較させ、図を用いて解法の根拠を論理的に説明する学習活動を充実させることで、活用力を育みます。
	◇「データの活用」 ・全国平均を下回っている。	平均正答率は 40.8% と全国平均 (48.6%) を下回ります。帯グラフの概数読み取りはある程度できていますが、表から条件に合うデータを正しく読み取ることや、集計の誤りを根拠とともに記述する問題に課題があります。	日常生活と学習内容を関連する表やグラフから、複数の条件に合致する情報を適切に読み取り・整理する活動を取り入れます。データ間の差異や集計の誤りを指摘する際は、「どの数値と比較したか」を根拠として言葉や表で明確に示す記述指導を徹底します。ICTを活用したデータ処理やグループでの分析・公表を通して、目的に応じて情報を統計的に考察・表現する力を育成します。

続いて、裏面に「質問紙調査」の結果の中で特徴的だった項目と分析を載せました。「基本的生活習慣等」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等」「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」などのアンケート調査です。

全国と比較して肯定的な回答が多かった質問項目	全国と比較して肯定的な回答が少なかった質問項目
1.質問（11）「人が困っているときは、進んで助けていますか」 - 旭小（「当てはまる」）：73.3% - 全国平均（「当てはまる」）：47.3% （全国平均との差：+26.0 ポイント） ※他者への配慮や助け合いの意識が非常に高く、本校児童の大きな強みです。 2.質問（16）「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」 - 旭小（「当てはまる」）：56.7% - 全国平均（「当てはまる」）：31.9% （全国平均との差：+24.8 ポイント） ※多様な考えを受け入れ、他者との対話や協働的な学びに価値を子どもたちが感じています。 3.質問（49）「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」 - 旭小（「当てはまる」）：60.0% - 全国平均（「当てはまる」）：35.2% （全国平均との差：+24.8 ポイント） ※学級内での主体的な話し合いや互いを尊重した合意形成が定着しています。 4.質問（10）「将来の夢や目標をもっていますか」 - 旭小（「当てはまる」）：80.0% - 全国平均（「当てはまる」）：58.6% （全国平均との差：+21.4 ポイント） ※8 割の児童が将来に対する前向きな目的意識をもっています。 5.質問（36-1）「PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成することができますか」 - 旭小（「そう思う」）：70.0% - 全国平均（「そう思う」）：49.5% （全国平均との差：+20.5 ポイント） ※ICT を活用した作業や表現に対する自信が大きく全国を上回っています	1.質問（66）「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」 - 旭小（肯定割合）：40.0%（「当てはまる」20.0% + 「どちらかといえば」20.0%） - 全国平均（肯定割合）：63.0%（「当てはまる」27.8% + 「どちらかといえば」35.2%） （全国平均との差：-23.0 ポイント） ※「どちらかといえば当てはまらない」と回答した割合が旭小では 46.7%（全国公立 26.0%）に上り、思考や解き方を言語化して説明する活動への実感が顕著に低い状況です。 2.質問（35）「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」 - 旭小（「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」）：3.3% - 全国平均（「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」）：20.5% （全国平均との差：-17.2 ポイント） ※児童の ICT に対する自信は非常に高い一方で、5年生までの授業における日常的な複数教科での活用機会は全国平均より限られていたことが示されています。 3.質問（60）「算数の勉強は得意ですか」 - 旭小（「当てはまる」）：16.7% - 全国平均（「当てはまる」）：31.6% （全国平均との差：-14.9 ポイント／肯定合計での差：-13.4 ポイント） ※「当てはまらない」と回答した割合も 36.7%（全国公立 17.1%）と高く、算数への苦手意識が窺えます。 4.質問（23）「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」 - 旭小（「2 時間以上勉強している」割合）：10.0% （「3 時間以上」3.3% + 「2 時間以上」6.7%） - 全国平均（「2 時間以上勉強している」割合）：21.6%（「3 時間以上」10.5% + 「2 時間以上」11.1%） （全国平均との差：-11.6 ポイント） ※平日の家庭学習において、まとまった学習時間を確保できている児童の割合が全国の約半分にとどまっています。

旭小学校の傾向（考察）

以上の強みと課題を踏まえ、今後の指導では以下の３点に重点を置くことが効果的と考えられます。

１、 対話力とICTを活用した「算数の言語化・可視化」の推進

児童の強みである「他者の意見を尊重し協働する姿勢」や「ICT 活用力」を算数授業に積極的に取り入れます。クロームブック上で自分の考え（図・式・言葉）を一覧表示・共有し、「なぜその解き方になるのか」を小グループで説明・議論し合う活動も活用します。可視化と対話を組み合わせることで、苦手意識を軽減しつつ「思考・判断・表現力」を高めます。

２、国語で培った読解力・表現力の教科横断的な活用

高い国語力（読むこと・情報の扱い方）を算数の文章題の読み取りや、「根拠（数値やデータ）を示して説明する記述」の指導へと波及させます。条件を整理して筋道立てて説明する思考のフレームワークを全教科共通で指導することが有効です。

３、家庭と学校との連携

家庭と学校が同じ方向を向いて児童を支える体制を整えることで、児童の確かな学力向上や健やかな成長が期待できます。特に、スマホ等の利用ルールの設定や就寝時刻などの規則正しい生活習慣について、保護者と課題感を共有し連携して改善を図ります。

児童がもつ素直さや高い協働性を基盤とし、算数科を中心とした言語活動の充実とICTの効果的活用、ならびに家庭との連携を進めることで、確かな学力の定着と主体的な学びの向上を目指します。